

【案】箕面市立病院経営強化プランの点検・評価 (令和 6 年度(2024 年度) 実績分)

箕面市は、令和 4 年(2022 年)3 月に総務省から示された「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を受け、令和 6 年(2024 年)3 月に「箕面市立病院経営強化プラン（第四次経営プラン）」を策定しました。

本プランの対象期間は、令和 6 年度(2024 年度)から令和 9 年度(2027 年度)までの 4 年間であり、毎年、点検・評価・公表を行うこととしています。

なお、指定管理者制度の導入により、本プランの対象期間中の令和 7 年(2025 年) 4 月 1 日から医療法人協和会による運営へ移行しました。そのため指標等は、令和 6 年度(2024 年度)までは市の直営による計画値、令和 7 年度(2025 年度)以降は医療法人協和会の運営による計画値となっています。

この度、「医療機能や医療の質、連携の強化等に係る主な指標の数値目標」、「主な経営指標の数値目標」、「経常収支比率・修正医業収支比率の数値目標」及び「収支計画」について、令和 6 年度(2024 年度) 実績に係る点検・評価を行いましたので、以下にお示しします。

1. 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る主な指標の数値について

令和 6 年度(2024 年度)は、病棟の一部閉鎖の影響により、救急応需率や手術件数が未達成となっています。一方で、在宅復帰率、紹介率及び逆紹介率は計画値を達成しており、地域医療支援病院として従前から地域の医療機関との連携強化に取り組んできた結果、これまでの水準を維持しています。

指標	単位	R6 計画	R6 実績	実績と計画の差異	
救急車応需率	%	70.0	65.1	△4.9	未達成
手術件数	件	4,000	3,416	△584	未達成
在宅復帰率	%	97.0	97.0	0	達成
紹介率	%	75.0	78.7	3.7	達成
逆紹介率	%	80.0	88.2	8.2	達成

2. 経営指標に係る数値、収支について

病棟の一部閉鎖の影響により、急性期の病床稼働率が計画値を下回り、1日平均外来患者数も未達成となりました。新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬の加算が終了した影響も加わり、入院診療単価や外来診療単価も未達成となりました。

また、材料費比率は計画値を達成したものの、人件費比率は職員退職手当の増加に伴い計画値を大きく上回り未達成となりました。

指標	単位	R6 計画	R6 実績	実績と計画の差異	
入院診療単価(急性期)	円	74,100	73,498	△602	未達成
入院診療単価(回復期)	円	36,000	35,510	△490	未達成
外来診療単価	円	16,900	15,653	△1,247	未達成
病床稼働率(急性期)	%	76.0	65.2	△10.8	未達成
病床稼働率(回復期)	%	70.0	70.7	0.7	達成
1日平均外来患者数	人	650	630	△20	未達成
人件費比率	%	58.2	86.3	28.1	未達成
材料費比率	%	24.0	23.8	△0.2	達成

経営の健全性を示す経常収支比率及び医業収益から一般会計負担金等を除いた修正医業収支比率は、未達成となりました。これは病棟の一部閉鎖による入院・外来患者の減少に伴う収益の減によるものです。

指標	単位	R6 計画	R6 実績	実績と計画の差異	
経常収支比率	%	91.3	83.8	△7.5	未達成
修正医業収支比率	%	89.2	81.9	△7.3	未達成

総収支は1,531百万円の赤字となり、計画値を627百万円下回る結果となりました。これは、収益での診療報酬の減少に加え、指定管理者制度移行に伴う体制整備に係る費用が増加したことによるものです。

〔総収支〕

(単位：百万円)

科目		R6 計画	R6 実績	実績と計画の差異
病院事業収益		9,280	8,270	▲ 1,010
	入院収益	5,950	5,130	▲ 820
	外来収益	2,674	2,397	▲ 277
	その他医業収益	316	302	▲ 14
	(医業収益小計)	8,940	7,829	▲ 1,111
	医業外収益	340	367	27
	(再掲)一般会計負担金・補助金	333	333	0
	特別利益	—	74	74
病院事業費用		10,184	9,801	▲ 383
	給与費	5,204	5,153	▲ 51
	材料費	2,145	1,909	▲ 236
	委託費	954	851	▲ 103
	設備関係費	742	721	▲ 21
	経費	803	716	▲ 87
	研究研修費	32	31	▲ 1
	資産減耗費	2	9	7
	(医業費用小計)	9,882	9,398	▲ 484
	医業外費用他	302	386	84
	特別損失	—	17	17
収支差		▲904	▲1,531	▲ 627

上記の総収支は、指定管理者制度移行に伴う職員の退職手当支給やそれに伴う一般会計補助金等の臨時的要素を除くことで、経営改善等の取り組みの結果を明確にしたものです。

なお、病院事業会計の実際の総収支は、これらの臨時的要素を含み、下記のとおりとなります。

【参考】

〔臨時的要素を含めた総収支（実際の病院事業会計）〕（単位：百万円）

科目		R6 計画	R6 実績	実績と計画の差異
病院事業収益		12,846	11,372	▲ 1,474
	内、医業外収益	3,906	3,469	▲ 437
	（再掲）一般会計負担金・補助金	3,899	3,436	▲ 463
病院事業費用		12,034	11,362	▲ 672
	内、給与費	7,048	6,704	▲ 344
	内、経費	809	726	▲ 83
	（医業費用小計）	11,732	10,959	▲ 773
収支差		812	10	▲ 802

※前表「総収支」から異なる箇所のみ抜粋して表示

3. 総括及び今後について

令和6年度(2024年度)は、指定管理者制度移行に伴う臨時的要素があったため、収支は黒字となったものの、その要素を除いた実質的な収支は、昨年度と同程度の赤字であり、計画値を下回るものでした。

一方、令和7年度(2025年度)からは、救急外来に救急救命士を複数名配置して体制を強化しています。救急救命士の配置自体が、1件でも多くの救急に対応しようという士気の向上に寄与しているほか、救急診療に係る院内の検討組織も見直し、新たな体制でスタートを切り、不応需理由の分析などを積極的に行うことにより、救急応需率は4月が74.6%、5月以降は80%を超えています。また、9月から全許可病床での運用を再開し、病床稼働率は4月が57.6%、5月が65.8%と着実に向上しています。

さらに、夜間30対1急性期看護補助体制加算の取得による収益向上など、指定管理者の経営ノウハウを活用した経営改善が進められます。

今後も、指定管理者である医療法人協和会と協力、連携し、地域に必要とされる医療機能の確保と医療サービスのさらなる向上をめざします。